



五行歌

メリークリスマス

伊東柚月

同じように見える家々の窓の灯り。
その中の暮らしがひとつひとつ違うように
クリスマスもさまざま。
10の物語...とっては大げさですが、
10首の全く違う雰囲気のクリスマスの歌を
ひとつの本にまとめました。
読んでいただく方が、それぞれに空想を
膨らませ、歌の主人公たちの気持ちや状況に
少しだけ共感していただけた時、もしかしたら
そこから物語が歩き出していくかもしれせん。

2010. 12. 23.

クリスマス・イヴ・イヴに

伊東柚月

恋人たちの

シャンパンの泡には

煌く

イブの星たちが

姿を変えて入ってる

誰も

傷つけず

来られたなんて

思えない

懺悔のイブにしようか

「楽しい」が

弾けた時の

セリフの吹き出しのよう

ひいらぎの

葉のカタチ

聖^{きよ}し夜には

今年

一番泣いた人に

綿雪淡雪

ふわり降り

頬は

こんなに冷たいのに

あったかいね

くちびるを

指でなぞれば

胸に

閉じ込めたまま

二度と

開けてはいけない

クリスマスボックスがある

雪よ

地上から空へ降りなさい

あの高みへと

想いを

届けたいのです

原色の

イルミネーションは

やさしい

眩暈をけぞり

顔をあげていらしたお母さんが

冷たくなければ

結実せぬもの

愛の温度で

輪郭を

失う

鈍色鈍の

空の欠片だと思ふ

雪よ

降るそばから

消えゆく雪よ

DEAR...

こんな小さな本を

読んで下さったあなたへ。

毎年、クリスマスの頃になると

ああ、もう今年も暮れてしまう...と

年末のやらねばならないあれこれを

何ひとつやっていない自分にいらだちを

覚えつつも、とにかく一年なんとか無事に

終われそうなことに、心でそっと感謝します。

クリスマスって、近年私にとっては特別なイベント

でもなんでもなくて、そんな風に、あたり前の毎日を

積み重ねられたことへ感謝する日になっているのです。

あたり前の毎日にも、沢山のひととの色々なふれあいがありました。1人では得られなかった想いが、また少し増えました。

ありがとう。

メリークリスマス！

メリークリスマス

著 者 : 伊東柚月

表紙写真 : 伊東柚月

第1版 2010.12.23 電子書籍にて

@Yuduki Ito 2009~2010